

委員会活動報告

関東甲信越支部 交流委員会

JIAへの道のり

—— 正会員、賛助会員との交流を願う



Cグループ

秋山 光和

皆様、始めまして。私は、関東甲信越支部 賛助会員 Cグループ 三基ルーバ株式会社 秋山光和です。

入会のきっかけは、平成18年の10月に、関東甲信越支部 副支部長 東條 隆郎 様（現：三菱地所設計 代表取締役専務）から勧誘を受けました。その時、JIAのことは全く知りませんでした。同年の8月に前社長が死去して、私が社長になって二ヶ月後でした。

私は、この会社に二度入社しております。一回目は、創業社長から声を掛けられました。昭和49年 創業の三基防音エンジニアリング株式会社という会社で、ファンやポンプなどの防音カバー、防音ボックス、サイレンサーの設計・製作・据付や防音壁・エンクロージャーの設計・製作・据付および騒音シミュレーションを業務としておりました。社員は、三人（社長・技術部長・事務員）だけで、ちょっと前に社員の一人が退職したため人探しをしていたところでした。

私も、技術・営業、そして出向といろいろ移動しました。出向の会社が解散したため、会社に戻ってきて、次は何処に行くのかな、技術に戻るのかな、また地方に飛ばされるのかなと、心配しているときに話があり、転職することに決めました。

昭和59年 沖縄県に電源開発(株)が石川火力発電所を建設するとき、日本で始めてアルミ製タテ型防水ルーバを納入いたしました。沖縄は台風銀座といわれています。暴風雨に見舞われて、ガラリから雨水が浸入し電気系統をダメにする危険性があり、防水型のガラリが必要でした。

一般的に、ガラリはアルミ製またはスチール製のヨコ羽根のついた製品で給排気口に取り付けられます。ガラリは、暴風時の横なぐりの雨に対しては、雨水が入るものと考えられていて、ガラリ内に入ってから建屋内で排水の対策をしていました。そこで、羽根をタテにし、形状を「く」の字に曲げて内部に水返しを付け雨水の浸入を防ぐようにしました。

石川火力発電所でのタテ型防水ガラリの性能が認められて、全国の各発電所に納入するようになり、また、一般の建屋・ビル・工場・倉庫・超高層ビルなどにも採用されています。

私は、防音関係の仕事が専門で、その当時はタテ型防水ルーバについては試作品作りを手伝っただけでほとんど知りませんでした。

創業社長は、防音関係の受注が延びそうにないと考えて、

タテ型ルーバで売上を伸ばそうとしました。そこで、昭和54年に、私は防音の会社を紹介してもらい、そちらに移りました。その会社も辞めて、いろいろな仕事をし、いろいろな経験をしました。

そして、平成7年に創業社長に再入社をお願いをして、平成3年設立の三基ルーバ株式会社に入りました。これが、二回目の入社です。

平成11年に創業社長が急死し、会社がどうなるかと心配しましたが、何とか持ちこたえました。次に、平成18年8月、三代目社長が病気で死去しました。そして、私が、四代目の社長になりました。会社をどのような方向に進めていけば良いかと思案している時でした。そんな時にお誘いを受けて入会いたしました。

JIAの最初の出席は、平成19年1月の賀詞交換会でした。JIAが、どのような協会でどのような活動をしているかも調べる時間がなく何も解らないまま出席し、取り合えず名刺を配りまくりましたが、名前と顔が全く一致しません。とにかく名前を覚えていただくことが最初と思いました。2月にC・Dグループ建物見学会で富山に旅行し、三協立山アルミ新湊工場見学・金沢の21世紀美術館・井波の彫刻・おわら風の盆と楽しく見学会をさせていただきました。旅行に行った皆さんとは、すぐに打ち解けて仲良きさせていただきました。そして、今年の2月には、C・Dグループ建物見学会で、美和ロック玉城工場見学・伊勢神宮参拝をし、これまた楽しい見学会となりました。いろいろな異業種の方とお付き合いが出来いろいろなことを教わって、日々勉強させていただいて会社運営に取り入れさせていただいております。

現在、交流委員会 C-5 副幹事を務めています。月1回の幹事副幹事会に出席して、親しくお付き合いさせていただいております。正会員の皆さんともっと親しくお話が出来るようになって、正会員の仕事のお手伝い出来るようになればと思います。今後、講演会、各交流大会、セミナーなどで、正会員と賛助会員との交流が出来るようお役に立ちたいと考えております。

最後に、JIAに入会させていただきましたことを、感謝しております。

〈三基ルーバ株式会社 代表取締役〉